

研究主題

人間としての生き方についての考えを深めることができる生徒の育成

－ 多面的・多角的に考え、自分を見つめ直す道德の授業の工夫を通して －

前橋市立第六中学校 遠坂 将

I 主題設定の理由

道德の時間は、他教科に比べて軽視されがちであったり、読み物の人物の心情理解に偏った指導のみが行われていたりするなど、多くの課題が指摘されてきた（平成26年10月21日答申）。新学習指導要領では「特別の教科」として道德が位置付けられ、授業の改善・充実に向けた取り組みが求められている。

前橋市の各教科等指導の努力点では、「考えさせたいこと、学ばせたいこと」を明確にし、自己を深く見つめ直す学習指導や他者の多様な考え方や感じ方に触れる交流の場の工夫を通して、主体的に考え、議論する道德の時間を旨し、授業の充実を図ることの大切さが示されている。

本校の三学年の生徒は、全体的に道德の時間に意欲的であるが、「授業で学習したことが自分の中にどう生きているのかよく分からない。」「考えの広がりや深まりをあまり感じたことがない。」などの様子が伺える。これは、今までの学習で、問題意識をもって自分と結び付ける経験が少ないことなどが一因であると考えられる。そのため、生徒は十分に人間としての生き方についての考えを深めるまで至っていなかったと考える。これらの解決のため、これまで以上に、生徒一人一人が、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、教材から学んだ道德的価値と照らして、自己の生き方を見つめ直すことが重要であると考えた。

本研究では、問題意識をもって学習に臨めるよう学習課題の設定の仕方を工夫したり、多面的・多角的な思考を促していけるよう板

書を工夫したり、自己を見つめる課題を設定したりすることを通して、「人間としての生き方についての考えを深められる生徒」を育成することができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

生徒が問題意識をもち、考えを交流する中で道德的価値を多面的・多角的に考え、自己の生き方を見つめる活動を取り入れることが、人間としての生き方についての考えを深められる生徒を育成するために有効であることを、実践を通じて明らかにする。

III 研究の見通し

道德の授業において、以下のとおり「導入」「展開前段」「展開後段・終末」の三つの場面それぞれにおいて指導の工夫を行うことで、生徒は、人間としての生き方について考えを深めることができるであろう。

- 1 導入で、ねらいとする道德的価値について、生徒と対話しながら学習課題を設定することで、考える必要性・必然性が生まれ、自分のこととして問題意識をもって授業に臨むことができるであろう。
- 2 展開前段で、生徒の立場や考えを整理して板書することで、道德的価値について多面的・多角的な思考を促すことができ、学習課題を解決することができるであろう。
- 3 展開後段・終末で、深まった道德的価値と照らして自己の生き方を見つめ、これからの思いや課題について考えることで、人

間としての生き方について考えを深めることができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 人間としての生き方についての考えを深められる生徒

本研究で目指す生徒像「人間としての生き方についての考えを深められる生徒」とは、問題意識を基に、探究心をもって学習課題を追究し、深まった道徳的価値の理解に照らして、自分を見つめ直すことができる生徒と捉えた。

(2) 生徒との対話による学習課題の設定

道徳の授業では、生徒一人一人が考える必要性・必然性をもち、問題意識をもって学習に臨むことができるようにすることが大切である。そのためには、導入においてねらいとしている道徳的価値について、生徒の問題意識を共有し考える必要性・必然性をもち、学習に臨むことが重要であると考えた。

そこで本研究では、導入で生徒との対話による学習課題の設定の工夫を行い授業実践することにした。

具体的には、授業でねらいと関わる生活体験を振り返らせ、今までの経験や問題場面について想起させる。例えば、「いつも人に親切にしているでしょうか。」「思いやりの心を持ち、人と接しているでしょうか。」などの発問を基に、対話を通して想起させる。また、生徒の問題意識が明らかになるように、「できている時とできていない時があるのはどうしてでしょうか。」「本当の思いやりとは何だろう。」などの発問を基に対話していく。そして、実践できた時の気持ち、分かっているも実践できない人間の弱さ、価値理解の不十分さ、複数の道徳的価値が対立する場合などについて共有し、生徒が考える必要性・必然性をもてる学習課題を設定していく。

(3) 多面的・多角的な思考を促す板書

道徳の時間では、考えの広がりや深まりを感じながら話し合うことが大切である。そのためには、読み物資料の内容や心情理解がしやすい板書ではなく、生徒が多面的・多角的な思考を促すことができるような板書を基に話し合うことが重要であると考えた。

そこで本研究では、生徒に多面的・多角的な思考を促していくため、①意見交流を活発にする場合においては、立場を比較整理した板書の工夫(図1)②道徳的価値の理解を深める場合においては、考えを分類整理した板書の工夫(図2)を行い授業実践することにした。

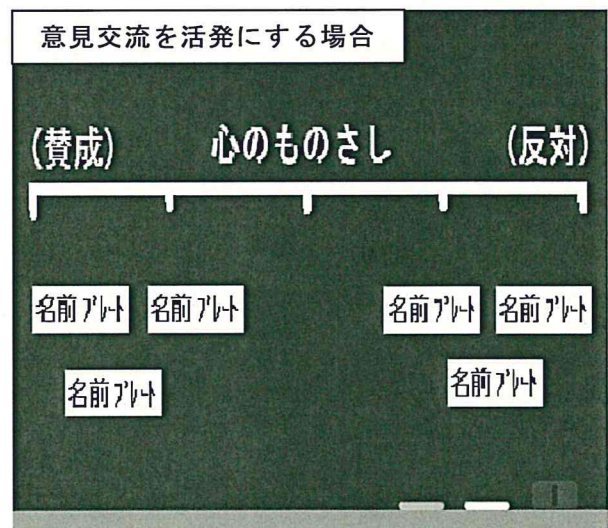


図1 立場を比較整理

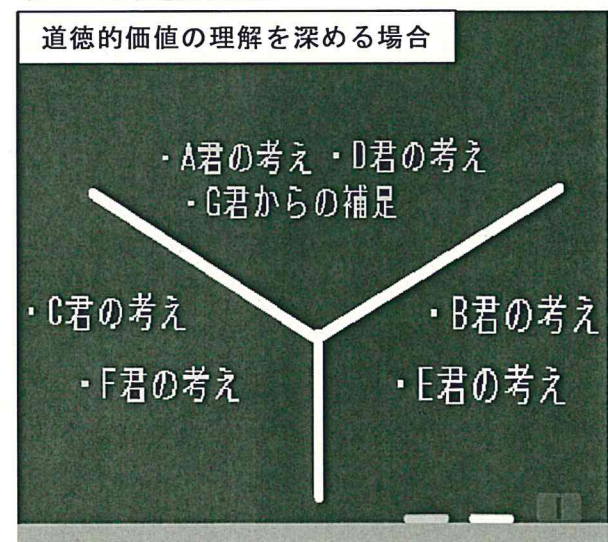


図2 考えを分類整理

生徒の立場を比較して黒板に示すことにより、自分と他人の立場が一目で分かり、それぞれの立場の根拠を発表させることで、意見の交流が活発になると考えた。

また、生徒の多様な考えを分類して黒板に示すことにより、生徒は可視化された多様な考えを踏まえながら話し合い、学習課題を解決することができ、道徳的価値の理解を深めることができると考えた。

なお、立場や考えを整理して黒板に示す際には、チョークの色で分けたり、小見出しを付けたり、矢印で関連付けたりするなどの工夫により、視覚的に分かりやすくした。

(4) 自己の生き方を見つめる活動

道徳の授業では、学習したことが自分の中にもどのように生きているのかを、生徒が理解した上で授業に臨むことができるようにすることが大切である。そのためには、深まった道徳的価値の理解に照らして、自分を見つめ直すことが重要であると考えた。

そこで本研究では、人間としての生き方についての考えを深めていけるよう、展開後段や終末において、自己の生き方を見つめる活動を取り入れる。

具体的には、展開前段で深めた道徳的価値の理解を基に、これからの思いや課題について自己の生き方を見つめさせることができるよう、展開後段・終末で発問する。

例えば「今まで思いやりをもって、～できたことはありましたか。」「自分の生き方に、本当の思いやりをどう生かしていけるだろう。」など発問していく。

こうした発問を受け、生徒は展開前段で深めた道徳的価値と自分とを結び付け、自己の生き方を見つめ直すことができ、人間としての生き方についての考えを深めることができると考える。

2 研究構想図

目指す生徒
人間としての生き方についての考えを深めることができる生徒

見出し3

＜自己の生き方を見つめる活動＞

高まった道徳的価値の理解と照らして、自己の生き方を見つめ、これからの思いや課題について考えることで、人間としての生き方について考えを深めることができる。

人間とは何かという探究心をもって
人間についての深い理解を進める

見出し2

＜多面的・多角的な思考を促す板書の工夫＞

道徳的価値について多面的・多角的な思考を促すことができ、学習課題を解決することができる。

見出し1

＜生徒との対話による学習課題の設定の工夫＞

考える必要性・必然性が生まれ、自分のこととして問題意識をもって授業に臨むことができる。

生徒の課題

- ・授業で学習したことが自分の中にどう生きているのかよく分からない。
- ・学習課題に必要性をあまり感じていない。
- ・考えの広がりを感じたことがない。

教師の課題

- ・教材研究の知識・経験が少ない。
- ・心情読み取り中心の展開になりがち。

V 実践の概要とまとめ

1 実践の概要

対象	3年1組 32名
実践時期	平成29年10月12日(木) 第2校時
主題名	「規則はなぜ大切か」 C-10 遵法精神・公德心
資料名	「二通の手紙」(私たちの道徳)
ねらい	自分たちを拘束すると感じる法やきまりが自分たちを守るだけでなく、社会を安定的なものにしていることに気付き、積極的に法やきまりを守り関わろうとする意欲や態度を育む。

資料の概要	<p>動物園の職員である元さんは入園終了時刻後、幼い姉弟と会う。「今日は弟の誕生日だから。」という姉の言葉に心を動かされ、保護者不在であることを承知で姉弟を入園させる。</p> <p>閉園時刻になっても姉弟の所在がつかめないことに動物園は騒然となるが、辺りが暮れかかった頃、雑木林の中の小さな池で遊んでいた姉弟が見つかる。</p> <p>数日後、姉弟の母親から元さんのもとへ感謝の気持ちを綴った手紙が届く。その翌日、元さんはもう一通の手紙である「懲戒処分」の通告通知を受け取る。</p> <p>元さんは、二通の手紙を机の上に並べて、「この二通の手紙のおかげで、新たな出発ができそうです。」と晴れ晴れとした顔で職場を去っていく。</p>
-------	---

2 結果と考察

(1) 見通し1【生徒との対話による学習課題の設定】(導入)

問題意識をもち、学習活動に取り組んでいけるよう、生徒との対話を通して、学習課題を設定した。

まず、身近なきまりや規則について想起させた。次に、きまりや規則が守れた時や守れなかった時の様子について意見を共有した。さらに、きまりや規則の意義について問題意識をもたせ、学習課題「きまりや規則がなぜ大切なのでしょう。」を設定した(表1)。

表1 導入場面の対話の様子(S生徒 T教師)

T	: 皆さんの身近にはどんなきまりや規則がありますか?
S1	: 交通ルールがあります。
T	: そうですね。みなさんがよく知っているはずのきまりや規則ですね。他にはありますか?
S2	: 校則です。
T	: なるほど。そうですね。中学校では校則

	<p>として知っておかなければいけないきまりがありますね。では、<u>みなさんはこうしたきまりや規則をいつも守って生活していますか?①</u></p>
S3	: 普段注意を受けることがないので、おおよそ守って生活できていると思っています。
S4	: 僕は、並列走行をして、先生に叱られたことがありました。
S5	: 校則で禁止されているものを持ってきて、指導を受けたこともありました。
T	: そうでしたね。学校に持ってきてはいけないものってありますね。他はどうですか。
S6	: 修学旅行で班のきまりをやぶって、単独行動をして指導されたこともありました。
T	: なるほど。では、きまりや規則ってどんなものと考えていますか?
S7	: 大切なものです。
T	: <u>きまりや規則が大切だということが分かっているけど、守ることができる時と守ることができない時があるのはなぜだろう?②</u>
S8	: 自分の気持ちに弱い部分があるから?
S9	: 僕はきまりや規則の大切さがよく分かっているからだと思います。
T	: なるほど。気持ちの面や分かっていることもあるかもしれませんが。ではなぜ、きまりや規則があるのでしょうか。
S8	: みんなのためかな? そうえば、きまりや規則の意味や大切さを深く考えたことがなかったので、よく考えた方がいいと思います。

生徒の身近な規則やきまりを想起させた後、「みなさんはこうしたきまりや規則をいつも守って生活していますか? (下線①)」と問い、これまでの自分を振り返らせ、本時でねらいとする「遵法精神」について考える必要性・

必然性をもたせられるようにした。生徒は、「普段から守って生活できている。」「守れなかったので叱られたことがある。」などと経験を振り返り発言した。

また、きまりや規則が守れなかった経験を思い出すことで、きまりや規則の大切さを考えるための必要性や必然性をもたせることができたと考える。

次に、「きまりや規則が大切だということが分かっているけど、守ることができる時と守ることができない時があるのはなぜだろう？

(下線②)」と問い、生徒の意識にきまりや規則についての問題意識が生まれるようにした。きまりや規則が大切であることを共有し、守ることができる時と守ることができない時があるという人間の弱さに着目させることで、生徒にきまりや規則の大切さを考える必要性・必然性をもたせることができた。また、問題意識をもって学習に臨ませることができたと考える。

授業後に実施したアンケートでは、「自分のこととして問題意識をもって考えられましたか。」の問いに、多くの生徒が「よくできた」「できた」と回答していた。生徒と対話しながら学習課題を設定したことで、身近にあるきまりや規則の意義について、問題意識をもって学習に臨むことができたと考える(図3)。

自分のこととして問題意識をもって考えられましたか。

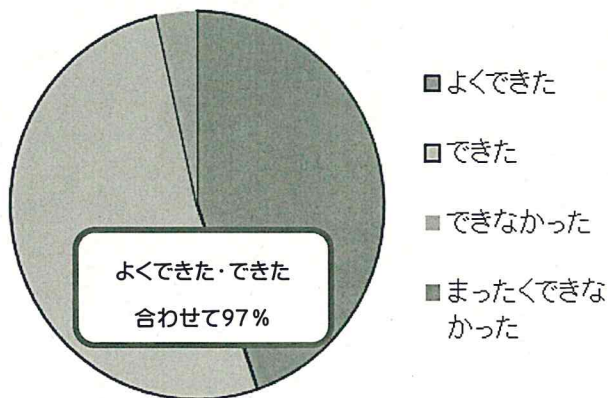


図3 問題意識アンケート

アンケートの記述からは、生活体験を振り返り学習課題を設定したことが、考える必要性や必然性をもって学習へ臨む姿へつながった様子が伺える(図4)。

今までルールを守ることができ
なかったり、深く意識したことか
なかったのでも深く考え、学習すること
ができました。

図4 生徒の感想①

(2) 見通し2【多面的・多角的な思考を促す板書の工夫】(展開前段)

意見交流が活発になるよう、主人公の判断について、支持するかしないかについての立場を板書で比較整理して示した。

まず、幼い姉弟を動物園終了後に入園させた職員の元さんの判断について支持するか、支持しないかについて考えさせた。そして、黒板にネームプレートを貼らせ、自分や友達の立場が明らかになるようにした(図5)。そのことにより、生徒は、それぞれの立場から、活発に意見を交流することができた。

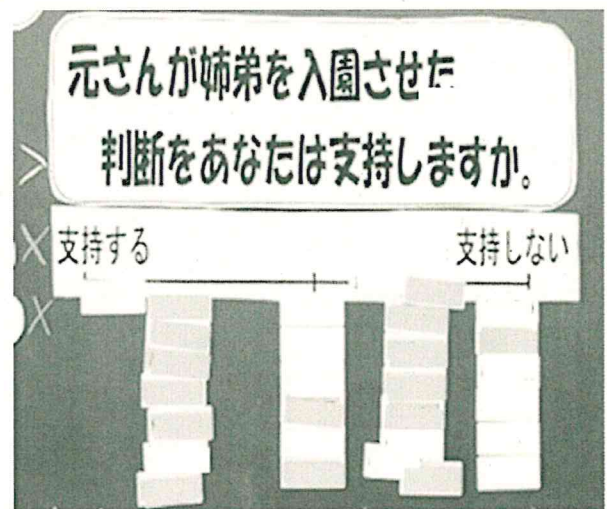


図5 立場を比較整理した板書

元さんの判断を支持するか、支持しないかについて、自分の立場を明らかにする場面で、生徒は元さんと自分の経験を結び付けて考え、立場を明らかにすることができた。意見交流

の場面では、立場が同じでも考えている内容が異なったり、立場が違っていても理解できる考えであったりと、生徒たちは自分と友達のことを比較しながら学習を進め、多面的・多角的な考えの広がりを実感しながら学習することができたと考える。

授業後に実施したアンケートの記述からは、自分と異なる立場の友達がいることを知ることが、考えが広がることに有効であった様子が伺える(図6)。

違う立場の人がたくさんいて、こういう考えもあるのかと広い視野で考えられました。

図6 生徒の感想②

その後、更に道徳的価値の理解を深めることができるよう、「なぜ元さんは晴れ晴れとした顔で職場を去ったのだろう。」と発問し、きまりや規則の大切さの根拠を話し合わせた。話し合いでは、元さんの思いやりの心やお客さんや職員など動物園に関わる人たちの安全面、動物園を運営していくことへの信頼など、多様な考えが出された。

教師は、生徒から出されたきまりや規則について考えを「安全」「秩序」「平等」の三つの視点から分類整理して板書して示した(図7)。

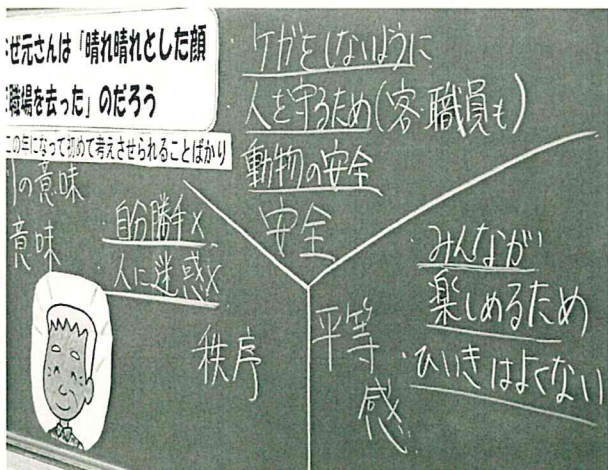


図7 考えを分類整理した板書

自分の考えと異なる考えが分かり易く黒板に示されることで、生徒は、自他の考えの類似点や相違点に気付くことができた。このように、生徒から出されたきまりや規則についての考えを「安全」「秩序」「平等」の三つの視点から分類整理して黒板に示すことにより、多面的・多角的な思考を促すことができ、「きまり・規則には、人々の安全を守る役割、その施設・社会の秩序を保つ役割、人々が平等に扱われるのに必要な役割があるので大切である」と学習課題を解決することができた。

授業後に実施したアンケートの記述からは、学習課題の解決に向けた話し合いを通して、きまりや規則に対する道徳的価値観を深めることができた様子(図8)や自分と異なる視点からの意見を基に自己の考えを深めることができた様子(図9、10)などが伺えた。

自分は安全くらいしか出せなかったですが、平等とか秩序とか大切だと理解できました。黒板でみんなの立場とか考えが分かっていてその人の考えを聞いたので良かったです。

図8 生徒の感想③

近い意見がまとまっていて、自分と同じ意見も違う意見もどちらもよく分かった

図9 生徒の感想④

違う視点から考えた意見がたくさん知れて、きまりについての考えが深まったと思いました。

図10 生徒の感想⑤

また、授業後に実施したアンケートの「自分や友達の立場を明らかにして比較した板書

は自分の考えを広げるのに役立ちましたか。」の問いに対して、全員の生徒が「とても役立った」「役立った」と回答しており（図 11）、意見交流を活発にし、多面的・多角的な思考を促していくのに効果的であったと考える。

自分や友達の立場を明らかにして比較整理した板書は自分の考えを広げるのに役立ちましたか。

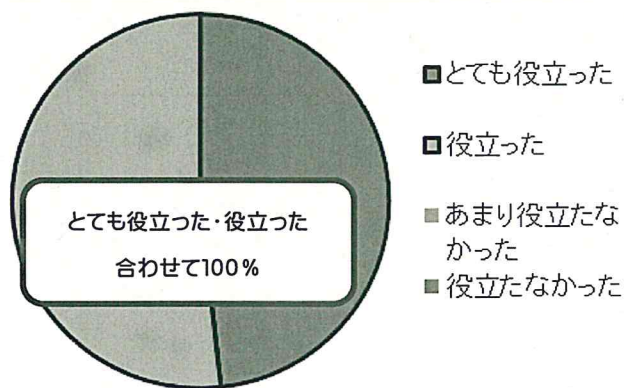


図 11 立場を比較整理した板書アンケート

生徒の立場や考えを比較整理して板書に示したことは、教師にとっても、意図的な指名や生徒の見取りの際に、大変有効であった。

また、アンケートの「クラスの考えを分類整理した板書は、きまりや規則がもつ、色々な大切さを知るのに役立ちましたか。」の問いに対して、多くの生徒が「とても役立った」「役立った」と回答している（図 12）。このことから、分類整理した板書は、学習課題の解決に向けた話合いに効果的であったと考えられる。

クラスの考えを分類整理した板書は、きまり・規則がもつ、色々な大切さを知るのに役立ちましたか。

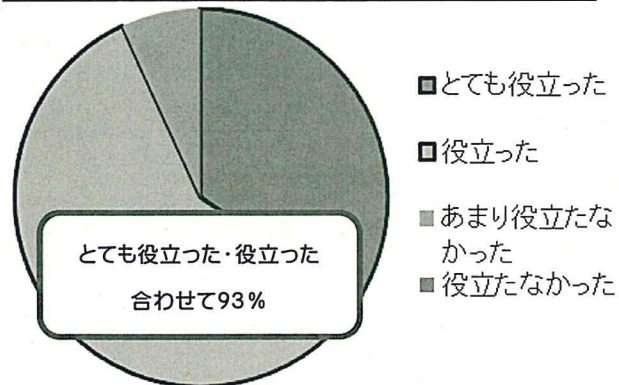


図 12 考えを分類整理した板書アンケート

(3) 見通し 3【自己の生き方を見つめる活動】 (展開後段・終末)

展開前段で、深まった道徳的価値と照らして、一人一人が自己の生き方を見つめさせることができるようワークシートを活用した。

ワークシートの記述からは、「安全」の視点以外にも、「秩序」「平等」の視点から自己の生き方を見つめている様子が伺えた（図 13～15）。

ルールや規則は大事だけどそれだけで守れないものもあると感じたので、判断をしっかりと、将来はみんなに平等なルールが作られてほしいです。

図 13 生徒のワークシート①

私や周りのみんな一人一人がきまりを守ることで、学校や社会の秩序が保たれることに気付きました。きまりを守るから色々なことができると思ったので、これからもそうしていきたいです。

図 14 生徒のワークシート②

特別扱いがきまりの平等感を無くしてしまうことはスポーツでも同じだと思いました。でも社会には特別な場合（障害者やケガの人）もあると思うので、そういう人のためのきまりも必要だと思いました。

図 15 生徒のワークシート③

導入においては、きまりや規則を守ることは大事だという基本的な捉えしかできていなかった生徒が多かったが、きまりや規則の意義だけではなく、きまりや守ることによる自由の保障など、自己の生き方を見つめる（次項図 16）ことで、これからの生き方への思い

や課題をもつことができたと思える。

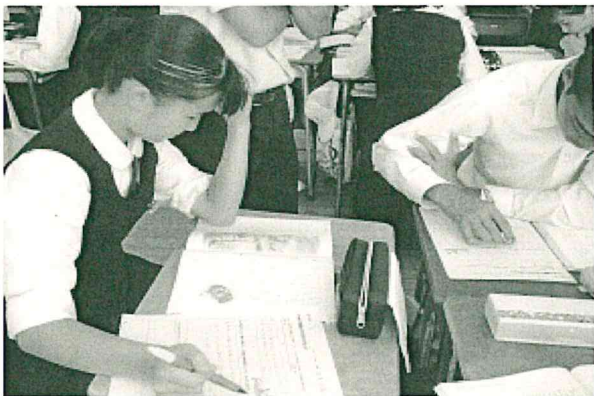


図 16 自己の生き方を見つめる活動の様子

授業後に実施したアンケートでは「授業で深まったきまりや規則の大切さを基に、これからの自己の生き方を考えたことが、自分を深く見つめ直して考えるのに役立ちましたか。」の問いに、ほとんどの生徒が「とても役立った。」「役立った。」と回答している（図 17）。このことから、深まった道徳的価値と照らして自己の生き方を見つめ、これからの思いや課題について考えることは、人間としての生き方について考えることに有効であったと考える。

授業で深まったきまり・規則の大切さを基に、これからの自己の生き方を考えたことが、自分を深く見つめ直して考えるのに役立ちましたか。

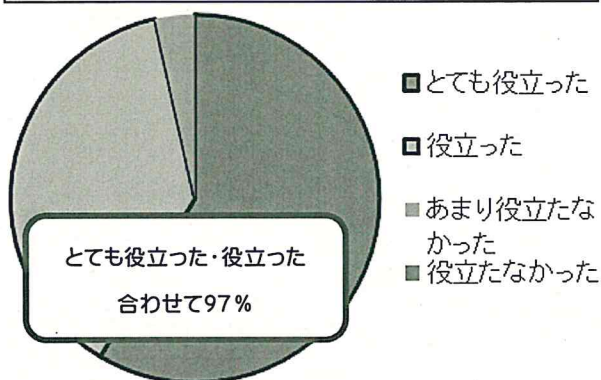


図 17 自己の生き方を見つめる活動アンケート

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

○生徒との対話により学習課題を設定したこ

とで、道徳的価値について考える必要性や必然性が生まれ、問題意識をもって最後まで意欲的に学習に臨む姿が見られた。

- 展開前段で、生徒の立場や考えを整理し視覚的に捉えられるよう板書を工夫することで、多面的・多角的な思考を促すことができ、話し合いを通して学習課題を解決することができた。
- 展開後段・終末に、自己の生き方を見つめる活動を設定することで、読み物教材から離れ、深まった道徳的価値に照らして自分を見つめ、人間の生き方についての考えを深めることができた。

2 今後の課題

- 型にはまった板書にならないようねらいや教材に合わせた板書の仕方を研究していきたい。
- ワークシートを用いて生徒に考えを書かせたり、整理させたりして、話し合い活動に活用することができた。今後は、授業での考えの深まりを見取り、評価に生かせるようなワークシートの作成や活用についても、研究を進めていきたい。

<参考文献>

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（2017）
- ・永田繁雄監修『道徳教育』編集部『平成 29 年度版 学習指導要領改訂のポイント 小学校・中学校特別の教科 道徳』明治図書（2017）